

2021 年（令和 3 年）の日本の年平均気温¹（速報）

2021 年の日本の年平均気温偏差（1991～2020 年の 30 年平均値からの偏差²）は+0.65℃（1～11 月の期間から算出した速報値）で、統計を開始した 1898 年以降、2020 年と並び、最も高い値となる見込みです。日本の年平均気温は、長期的には 100 年あたり 1.29℃の割合で上昇しており、特に 1990 年代以降、高温となる年が多くなっています。

2021 年の特徴として、冬の後半から春のはじめ、及び秋に寒気の南下が弱く、夏も主に 6～7 月は北日本を中心に高気圧に覆われたことから、2 月以降平均気温の高い月が多くなりました（日本の天候の詳細は別紙 1-2 に記載）。また、日本近海では平年より高い海面水温が観測されることが多くなりました。

近年、高温となる年が頻出している要因としては、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響が考えられます。また、エルニーニョ現象やラニーニャ現象などの数年程度から数十年程度の時間規模で繰り返される自然変動の影響も受けて変動していると考えられます。

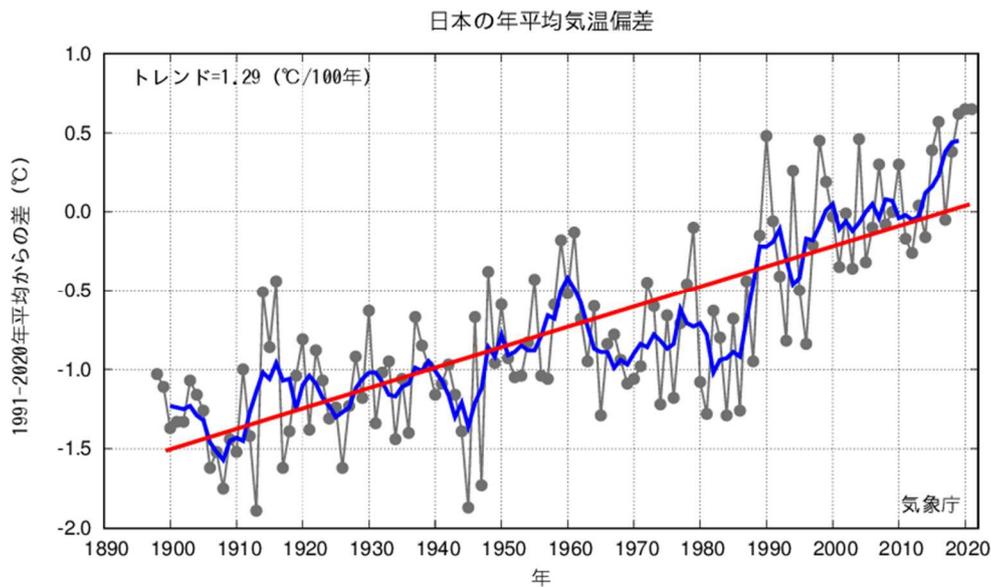


図 日本の年平均気温偏差の経年変化（1898～2021 年、速報）

黒線は各年の基準値からの偏差、青線は偏差の 5 年移動平均値、赤線は長期変化傾向（この期間の平均的な変化傾向）を示す。基準値は 1991～2020 年の 30 年平均値。

¹ 日本の平均気温の偏差の算出にあたっては、都市化による影響が比較的小さく、長期間の観測が行われている地点から、地域的に偏りなく分布するように選定した 15 地点（※）の気象台等の観測値を採用している。

※網走、根室、寿都（すつつ）、山形、石巻、伏木、飯田、銚子、境、浜田、彦根、宮崎、多度津、名瀬、石垣島

² 日本の年平均気温の偏差は平均気温から基準値を差し引いた値から算出している。気象庁では、本年 5 月にこれまでの 1981～2010 年の 30 年平均値から 1991～2020 年の 30 年平均値に基準値を変更した。

参考：日本の年平均気温の順位（上位 10 位まで、速報）

日本		
順位	年	気温偏差（℃）
1	2021	+0.65
	2020	+0.65
3	2019	+0.62
4	2016	+0.58
5	1990	+0.48
6	2004	+0.46
7	1998	+0.45
8	2015	+0.39
9	2018	+0.38
10	2010	+0.30
	2007	+0.30

本資料は、2021 年 1～11 月までの観測データをもとに、速報としてまとめたものです。日本の年平均気温の確定値は、2022 年 1 月初めにホームページ（下記 URL）で発表します。

また、同ページにて年別・季節別・月別の世界及び日本の平均気温を随時更新・掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/index.html>

